

心とは山河大地なり、日月星辰なり

『正法眼蔵』 「即心是仏」

この句の「山河大地、日月星辰」は、身の回りから宇宙全体にいたるまで、存在するすべてのものを意味します。つまり、小さな虫やとなりのポチ、大自然の山や川、宇宙に散らばる無数の星たちまで全部ということです。

それらが心であるということですから、わたしたち一人ひとりの心は宇宙いっばいの存在であるという訳です。

また、『華嚴経』というお経の中に「三千大世界ほどの（想像もつかないくらい広大な広さの）布が、極小なる一原子の粒子のなかに収められてしまう。そして、一原子の粒子と同じすべての極小なる粒子には、残らずそれと同様の大布が一枚ずつ入っているのだ」という一節があります。

この大宇宙に存在するものは、すべてが有機的に関連しあつて存在しています。その中の一つでも欠けるとその調和は乱れてしまいます。大宇宙のような巨大なものと原子のような微粒子も、同じように互いに関わりあい、つながつて存在しているのです。

私たちの心も、そんな宇宙の広大な広がりや密接に繋がっていると言うことができているのでしょうか。つまり、「心」は大宇宙のように外に向かつて広大でありながら、「わたし」自身もまた、心の宇宙で満たされているのですから。

まづもろともに かがやく宇宙の微塵となりて 無方の空にちらばらう

（宮澤賢治）

私たちの毎日は決して心楽しいことばかりではありません。むしろ嫌なこと、思い通りにならないこと、悲しい出来事のほうが多いかも知れません。

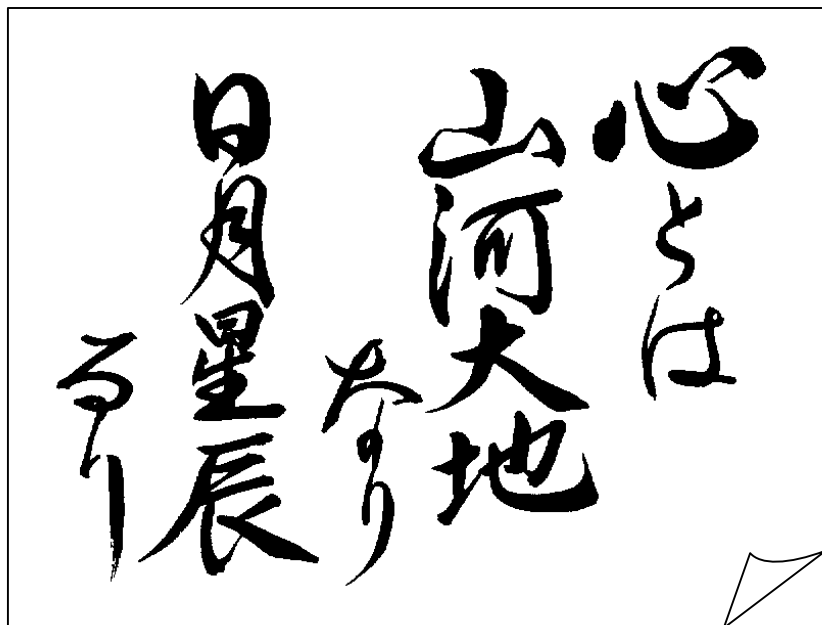
そのようなとき、それらを避けず、とらわれず、真の正しい道を見つめていくこと、平常心を保ち、全身で事実を受け止め、そして、困難を乗り越えて行く勇氣と希望を持つことが大切だと、表題の句は教えています。

大自然のように豊かで広大な心、そして「わたし」という大宇宙によって全てのことがらを全身で受け止め、我が物にするとき、「心」という大宇宙と「山河大地、日月星辰」の大宇宙とが融合して、大いなる生きる力が無限に広がり沸いてくるのではないのでしょうか。

この言葉は、道元禪師が『正法眼蔵』の中で、仰山慧寂禪師（八一四―八九〇）の遺された「作磨生是妙淨明心、山河大地、日月星辰」という文を引用して説かれた一節です。

『正法眼蔵』の中には「仏性」「法性」「説心説性」「諸法実相」等、「心」を主題にしている巻が多く、表題の句は「即心是仏」の巻に収録されています。

道元禪師は、理心（佛心・清淨心）の現れとしての「事」そのものになりきること、つまり日常の行いそのものがそのまま仏法であり、いかなる分別妄想があろうが、自分にとって不都合なことや考え、あるいは望ましいことや好ましい考えがあっても、それらにとらわれず、すなわち避けず、求めず、ただ、今ここで、法に基づき必要なことを事実に従ってなしていくことが大切である。それが、仏道の要諦であると説いているのです。



曹 洞 宗

神奈川県第二宗務所
第五教区 布教部・出版部